

神戸大学と

Across the Boundaries

神戸大学のメタモルフォーゼを伝えるメディア

No.12

わたし

「高齢者の生き甲斐・社会的孤立・認知症」という「宿題」に人生をかけて取り組む。



「大学と社会の結び目」博士（医学）の仕事とは？
元タカラジェンヌの
歯科医師・榎谷多紀子さんに聞く
「ききん・だより」募金状況・事業展開報告、ほか

【神戸大学基金を大きく育てよう】

●ここにもいた神戸大学<OB・OG>
地元の可能性を「純米酒」にかけて、とことん引き出したい。
鳥取県若桜町で造り酒屋を営む太田義人さん

●神戸大学基金の事業展開
国際化対応力の向上を目指して短期海外研修を支援



「高齢者の生き甲斐・社会的孤立・認知症」という宿題に人生をかけて取り組む。

小学校にはほとんど行っていない。しかし、運動代わりに親が習わせた日本舞踊に救われた。人はひとつの道にこだわる必要はない。勉強以外にもいろんな世界があることを知れば自由になれる。タカラジェンヌに憧れて大舞台に立ち、青春を駆け抜けて歯科医になった。さらに、大学院に入学して博士（医学）になった。これからもその歩みは止まらない。

●分かる楽しさの原体験

生まれたときから虚弱体質で、小学校はほとんど行っていない。と言うより行けなかった。

「赤ちゃんのときからすぐに熱を出して救急車で運ばれたり、食事をたべないので点滴で栄養補給をしているような子どもでした」

6歳のころ、運動の代わりになるならばと親が日本舞踊を習わせた。

「だから、学校には行っていないが日本舞踊の稽古には通っていました」

7歳で日本舞踊の初舞台を踏み、観客からもらう喝采の喜びを知った。9歳になると琴の練習も始めた。そうしているうちに少しずつ体力が付いていき、小学校の5年生からは休まずに学校に通えるようになった。

ところが、登校すると今度は勉強が分からない。

「テストは0点ばかり。質問されても答えられない。同級生からは無視される」

悔しかった。

「同級生と対等に話ができるようになりた

い」その気持ちをバネに、中学校に上がると英

語と数学の塾に通い始めた。その先生の教え方がとても上手で、薄紙を剥ぐように理解が進んだ。

「分からないことが分かっていくのは、こんなに楽しいんだということが段々分かりはじめました」

そうして成績も上がり始め、勉強も楽しくなつて学校に通うのも楽しくなつていった。

クラスメートの話の中にも入っていけるようになった。

●宝塚歌劇の世界へ

宝塚歌劇に出会ったのはそんな14才のときだった。浜木綿子さんの『即興詩人』という舞台を見て感動したのである。

「素晴らしい歌声と迫真の演技に胸が震え、私もあの舞台に立ちたいと思ったのです」

しかし大学に進学したいという気持ちもあつた。大学進学を選ばなら宝塚をあきらめなければいけない。ずいぶん悩んだが、宝塚を目指すことを決意。文化的な活動が盛んな高校に進学して高校の3年間を宝塚音楽学校への受験準備に当てることにした。学校から帰るとすぐ、カバンを置いてバレエや声楽の



●「ますたにデンタルクリニック」は阪急宝塚駅にある

レッスンに通った。

「高校の3年間で私が一番活躍したのは教室ではなく文化祭でした」

宝塚音楽学校の試験は一回で合格した。「しかし50人中16番目。これではいい役をもらえない、10番以内に入らないと」

1年目は家から通ったが、それでは到底追い越せない。2年目に学校の近くに下宿（音楽学校専門の下宿）した。

「朝はだれも来っていない時間から発声練習、ピアノの練習、バレエの基礎練習など、基礎練習をやつてから授業を受ける。それを1年間通してやりました」

その結果、優等生で卒業できた。さらに入団試験では主席で入団。花組に配属され「花園とよみ」という名前で娘役としてデビューした。

●宝塚歌劇団で咲かせた花

宝塚歌劇団は年功序列であると同時に徹底した実力主義でもある。努力すれば努力した分だけ必ず報われる。

榎谷さんは「メナムに赤い花が散る」という舞台で大スター春日野八千代さんの相手役



プロフィール
榎谷多紀子（ますたに・たきこ）

1945年大阪市生まれ。66年宝塚音楽学校を卒業後、宝塚歌劇団に主席で入団。「花園とよみ」の名で花組の娘役として活躍。70年「ドリーム・ア・ドリーム」を最後に退団。その後NHK大河ドラマ「新・平家物語」などに出演。82年大阪歯科大学入学。91年歯科医師国家試験に合格。93年阪急宝塚駅前で開業。2006年神戸大学大学院医学研究科老年精神医学専攻博士課程入学。10年同課程修了、博士号（医学）取得。

に抜擢された。タイの日本人町で活躍した山田長政の妻カリー二姫の役であった。

さらに、入団4年目に「永遠のカトリア」で、甲にしきさんの相手役をつとめその年の年度賞新人賞を受賞した。このとき「やり切った」という気持ちがいっていた。自分の「花」はもう十分に咲かせた気がしたのである。

宝塚の世界は24時間毎日舞台のことで頭をいっぱいにして走り続けなければいけない。そうでなければ、すぐに追い越されてしまう。それでも、ちよつと立ち止まってものを考える時間がほしかった。榎谷さんは、舞台「下リム・ア・ドリーム」を最後に宝塚歌劇団を退団した。

●一生をかけられる仕事を

退団したらどうしようと考えていたわけではない。テレビに出ないかと誘われるままに、NHKの大河ドラマに出演したりなどしていたが、芸能界と宝塚はまったくの別世界だった。次第に芸能界にいることに違和感を感じてきた。

そんなときだった、中学3年生のときにいったんはあきらめた学問への道がふたたび見えてきたのは。

「そうだ、大学に行こう」

生涯学び続けられる学問と出会いたい。そう決意はしたものでどんな学問の道に進むのか、それからさらに2、3年は悩み続けた。悩んだ末に、歯科医になろうと決断した。それは「舞台人は歯が命」だから。そして出来れば、高齢者のお役に立ちたいという思いからだった。

歯科大学への試験勉強を始めたときは30歳を過ぎていた。高校時代に理科系の勉強はほとんどしていなかったのもっとも苦労した



●宝塚大劇場の前で

ところだ。

予備校に入る前に1年間準備の勉強をし、予備校に入ってから2年、2回目の受験で合格した。36歳になっていた。

「しかし何かを始めるのに年齢は関係ないと思います。年齢でくくられると自由な行動が制約されてしまうからです」

榎谷さんは、予備校でも大学でも若い同級生に友達になってくださいと声をかけた。その結果、数学の得意な友達、英語の得意な友達ができ、わからないところを教えてもらえたという。

そうやって6年間、ようやく卒業まで漕ぎ付けたが、マークシート式の歯科医師国家試験がまた難関だった。3回目に不合格となったとき、自分はこの世に不要な人間なのではないかと、立ち直れないほどショックを受けたが、4回目によろしく合格した。

●認知症に苦しむ恩師

国家試験に合格したことが新聞記事になったとき、中学時代の恩師から手紙をもらった。人生の選択に悩んでいたころの担任の先生である。

「30年も経つのに覚えていてくださったことがうれしくて、すぐに返事を書きました」

しかし、その後、研修、開業、阪神淡路大震災などあわただしい日々が続き、先生に再会したのは手紙をもらってから10年以上の月日が経過していた。

40数年ぶりに会った先生の姿は衝撃的だった。あの輝いていた熱血先生の姿はそこにはなかった。先生の口から発せられたのは「何年ぶりやろ、人としやべったのは」という言葉だった。

先生は周囲から孤立し、認知症に苦しみ生きる氣力を喪失しながら、大きな家に一人暮らししていた。

「それから何日も先生の姿が夢の中に出てきました」

榎谷さんは、診療を続けながら先生を励ましに通った。

●博士号(医学)を取得

神戸大学の大学院医学研究科(老年精神医学)に進学しようと思ったのはこのことがきっかけだった。

「認知症についてもっと知りたい、勉強したい」と思ったのだ。

それから朝5時に起きて受験勉強を続け、2006年に合格。10年に博士課程を修了した。

博士論文のタイトルは「元タカラジェンヌは年齢を重ねても認知能力が高い」。平均年齢80歳の元タカラジェンヌと一般女

性124人に協力してもらって、脳や認知機能について調べた。

その結果、声楽やバレエなど舞台教育に10年以上携わった人は、そうでない人よりも認知機能が低下しにくく、うつにもなりにくいという結論に達したという。

榎谷さんはこれで博士号(医学)を取得した。

●先生からの「宿題」

榎谷さんは、認知症の問題、高齢者の生き甲斐の問題は、先生から与えられた「宿題」ではないか、と今思っている。

「高齢者がどうして生きてきたことを後悔しなければならぬのか、なぜ孤立して認知症に苦しまなければならないのか、老いとはどんなにむごいものなのか」と先生から「宿題」が投げかけられているように思えるのだ。

榎谷さんの目下の関心は、これらの問題の答えを探ること。そのためにすでに神戸大学大学院医学研究科で学び、博士論文を書き、博士号を取得したが、それは第一歩。「宿題」の答えを求めて、榎谷さんのチャレンジはこれからも続く。



●クリニックの治療室にて

地元の可能性を「純米酒」にかけて、とことん引き出したい。

太田義人さんは鳥取県若桜町で造り酒屋「太田酒造場」を経営している。地元産酒米と完全発酵にこだわり、酒のうま味をとことん引き出そうと努めている。この活動が近隣農家と志ある酒販店の支持を集め、「辨天娘」ブランドは徐々にその名を広めている。それは若桜町という地元の可能性を切り開くことでもある。



●太田酒造場の製品ラインナップ

有限会社太田酒造場
代表取締役

太田義人さん

1972年経営学部入学、76年卒業。地元鳥取県若桜町に帰り、実家の会社経営を手伝う。1998年より、一時休止していた太田酒造場の再開を計画し、準備を開始。2002年に再開。完全発酵の純米酒が認められ徐々に販路を拡張。辨天娘、ブランドは今日ではオーストラリアに輸出するほど。地元産酒米の生産にも関与し地元とともに関わり続ける。
<http://www.1oon.ne.jp/bentennu>



●卒業してすぐ帰郷

経営学部経営学科（秋山ゼミ）を1976年の9月に半年遅れで卒業した。

「おかげで卒業時は、学部長から直々に卒業証書ももらいました」と、太田さんは笑う。卒業してすぐ、地元若桜町に帰ってきた。実家が太田酒造場とは別に、もう一つ「鳥取杞柳」という会社を経営していて、それを手伝うためであった。杞柳とは柳行李のこと。鳥取や豊岡はかつては水ノ山の山麓に育つ柳を原料とした柳行李製造業が盛んだった。

しかし、その柳行李製造業も1960年代には衰退し鳥取杞柳はすでに縫製業に転身していた。ちなみに、おなじく柳行李の製造が盛んだった豊岡はカバン製造業に転換していた。

縫製業としての鳥取杞柳はピーク時には従業員150人を有する規模に膨らんだが、徐々に輸入物に押されるなどして採算が悪化し1990年代ついに縫製業から撤退した。

●太田酒造場を再開

太田さんが酒造に本格的にかかわるようになったのは、そのころからである。

「父が経営していた太田酒造場は、杜氏不在となってしばらく休止していたのですが、それを再開することにしました。」

再開を決心したきっかけは、酒造組合の視察で広島に行ったとき、マンションの地下で一人で酒造りをしている人がいたこと。

「それを見たとき、これならうちでもでき

ると思ったんです」

経験のない社員に酒造りがしたいかと聞いたところ「したい」と言う。しかし、全然造ったことがなかったので、2年ほどかけて通信講座や酒類総合研究所での研修など一から酒造りのやり方をみっちり教えてもらった。そして、機械も小ぶりのものを購入した。最初、ひと仕込み分が500リットルの最低限の設備を揃えた。

再開した年は、それを2本仕込んだ。結果からいうと、完全発酵した「酸度」のしっかりした酒ができました。

さて、どのように売ろうかと考えていたところ、純米「燗酒」系の酒販店さんが認めてくれて徐々に販路が広がった。翌年は、3本仕込んだ。その次は7本と、売れ行きを見ながら少しずつ増やしていった。

太田酒造場が再開してしばらくすると、近隣の造り酒屋が毎年軒すつ廃業した。そういうところからタンクなどの設備を安く分けてもらった。中古だが、新品を買えばそこそこの出費。それを安く揃えることができた。「申し訳ないが、うちにとってはタイミングがよかった」と太田さんは振り返る。

●酒米の作付面積が決める醸造量

太田酒造場が醸造しているのは純米酒である。純米酒の条件は、等級検査で3等以上になった米と、米麴で造ったお酒だ。太田酒造場では基本的に酒米ごとで仕込み、ブレンドしないのでそれぞれ異なった味が楽しめる。「燗をするということによってふくらみが出てくるお酒になっていると思うし、食中酒として召し上がってほしいお酒です」と、太田さん

は強調する。

太田さんは造り酒屋としては珍しいことが酒米作りからかわっている。そのきっかけは、造りを再開して3年ほど経ったとき、酒米の割り当てが希望数量に届かず不足したこと。「それなら自分が作るのか」と、農家でもあった杜氏が言ってくれた。栽培の過程や、その年の気候によって変わる米の性質が、自分で見られるという利点もあった。

それ以降は、米作りから手がけている。徐々に、近隣の農家の間で「自分たちも酒米を作りたい」という声が広がり、今ではできた酒米の量で酒の仕込み量を決めるようにしている。

2014年は作付け面積を3割ほど増やした。その結果、仕込みの量は19本（1万8千リットル）から25本に増やすことになった。

●学生時代はワンゲル部

太田さんは学生時代、ワンダーフォーゲル部に所属していた。ワンゲル部に入ったきっかけは、まかない付きの下宿の主人と同宿者がワンゲル経験者で、誘われたことから。そのころ部員は100名ほどいた。普段はトレーニングに明け暮れていたが、夏合宿では10日前後かけて南アルプスを縦走した。さらに春と秋にスキー、サイクリング、離島行きなど、少人数での自主活動を展開した。

「3年ほど前に50周年の集まりがあり、100名ほどが集まった」という。しかし、卒業してすぐに地元に戻った人は多くはない。

「いまは地元ともに行けるところまで行ってみたい」と、太田さんは自然体で語った。



●太田酒造場のブランドは「辨天娘」

国際化対応力の向上を目指して短期海外研修を支援

神戸大学の国際コミュニケーションセンター（SOLAC）では、2003年の発足以来、主に学部生を対象にした短期海外研修プログラム（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）を実施しています（表参照）。神戸大学基金ではこのプログラムを継続的に支援しています。ここでは2014年度に短期海外研修に参加した4名の方に話を聞きました。

●短期海外研修に参加した動機は？

Q 短期海外研修に参加した動機を順にお聞かせください。まずは英語の溝手さんから。

A 私は高校1年生のときにオーストラリアに2週間留学したことがあるのですが、そのとき意思疎通がうまくできなくて悔しい思いをしたことがあって、もっと語学力を向上させたいと思っただけです。

Q ドイツ語の研修に参加された小笠原さんはどうですか？

A グラーツ大学の場合は長期留学するための前準備としての語学研修という位置づけのコースです。私は文学部のドイツ文学コースの学生で2年ほどの学習歴があ

●質問に答えてくれた人：



小笠原悠太さん 独語
（おかわら・ゆた 文学部5年）



佐々木明葉さん 仏語
（ささき・もえは 法学部1年）



溝手結さん 英語
（みそて・ゆう 工学部5年）



福田諒さん 中国語
（ふくた・りょう 法学部1年）

るのですが、オーストラリア文学を今後も勉強していくかどうか確認したかったので参加しました。ある意味で長期留学のための予備体験です。

Q フランス語の佐々木さんはどうですか？

A 私はフランス語を勉強し始めてまだ半年経たないうちに参加しました。最初はまったく意思疎通できなかったのですが、徐々に何を言っているのかわかるようになりました。将来は国連など国際機関で働きたいと思っていますので、今のうちから英語以外の語学の勉強を始めておきたいと思っただけです。

Q 中国語の福田さんはどうですか？

A 私1年生で、語学は半年やったただけ。それではあまりに少ないということですが、中国語の先生が毎週水曜日1時間、希望者向けのレッスンをしてくれました。参加した動機は、将来的に中国語に関係した仕事をしたいと思ったからです。それと、自分の目で実際の中国を見てみたいと思ったことでもあります。

Q 短期海外研修の成果は？

A 現地で印象に残っているエピソードを教えてください。

私（小笠原）の研修コースには世界のいろいろな国から留学生が来ていますが、英語が共通語のようになっていくことにびっくりしました。

私（佐々木）も、フランス語の勉強をしに行ったのに逆に英語の重要性を知りました。どこへ行っても、わからなくなったら英語の助け舟が出てくるという感じです。

私（溝手）は、ホームステイだったので、研修が終わってホストファミリーの家に帰ってもずっとひとりで英語に立ち向かうという感じでした。大変でしたが楽しい経験でした。私（福田）は、日中関係が悪くなっていると言われる中で、日本人だからという理由で冷遇されたりしたことは一度もありませんでした。日中関係が悪いという印象は日常接する人からは感じませんでした。



Q 基金からの支援（一律5万円）は役に立ちましたか？

A 私（小笠原）の場合、費用全額の1割以上に相当するので大変有効で、支援があることによって活動の幅を広げることができました。

私（溝手）は基金からの支援は大変大きいと思います。長期留学に比べて短期留学のほうが割高だったりするので、支援の有効性も大きいのです。

私（佐々木）は物価の高いフランスに行ったので、学校以外の活動で結構費用がかさんだりしましたが、その分を支援でカバーできました。

私（福田）は近い国で旅費も比較的安く済みました。それでも支援があることによって研修に行きやすくなったと思います。

表1 2014年度 短期海外研修実施要領

| 対象言語 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 |
|--------|--------------------------|-------------------------|-------------|---------------|
| 国名 | アメリカ合衆国 | オーストリア | フランス共和国 | 中華人民共和国 |
| 提携大学 | ワシントン大学 | グラーツ大学 | リヨン・カトリック大学 | 北京外国語大学 |
| 学生参加人数 | 34名 | 17名 | 21名 | 6名 |
| 同行教員 | Marian Wang Tim Greer | Stefan Trummer 福岡 麻子 | 廣田 大地 | 朱 春躍 高橋 康徳 |
| 授業実施期間 | 9月2日~9月19日 | 9月4日~9月26日 | 9月1日~9月26日 | 8月11日~8月29日 |
| 出発日 | 8月29日 | 9月1日 | 8月30日 | 8月7日 |
| 帰国日 | 9月25日 | 9月29日 | 9月30日 | 8月31日 |

表2 短期海外研修派遣人数の推移

| | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 派遣人数 | 91 | 78 | 47 | 80 | 114 | 158 | 147 | 715 |

きぎん・だより

「基金の募金状況」

「神戸大学基金」の
取組みのご報告と
さらなるご支援のお願い

「神戸大学基金」の平成26年11月末現在の募金状況はグラフのとおりです。多くの皆様方からご厚意が寄せられましたことに心より感謝申し上げます。

現在、本学は世界トップクラスの教育研究機関として確固たる地位を築くため、「神戸大学ビジョン2015」の実現に向けて日々邁進しております。今後とも皆様の暖かいご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

「基金の事業展開内容」

国際化への対応をはじめ、
多彩な活動を支援

神戸大学基金（基盤事業）の展開内容は、以下のとおりです。

①明確な目標を持った優秀な学生の海外留学・研修への派遣支援として

海外派遣・語学研修・留学・海外インターンシップ・ボランティア・国際学芸等派遣事業

②海外に向けた発信への支援として

研究者向け英語個人指導・学部生向け英語プレゼンテーション指導等

③海外からの優秀な留学生・研究者の受入と
つな

ダブルディグリープログラム等に参加する協

定大学から来学してくる海外留学生への支援

④神戸大学基金緊急奨学金制度の充実

・神戸大学基金緊急奨学金（災害や不慮の出来事による修学・生活困窮学生への支援）
・神戸大学基金奨学金（優秀かつ生活が困難している新一年次生への支援）

⑤課外活動（ボランティア活動を含む）支援

・東北ボランティアバスへの支援
・顕著な活動実績をあげた課外活動団体・個人への支援

⑥東京地区におけるプレゼンス向上活動支援

・首都圏における同窓生とのネットワークの構築・強化
・首都圏における情報発信業務・イベント等への支援業務

・在学生の首都圏における活動支援

⑦施設環境整備

・鶴甲第一キャンパスグラウンドの人工芝への推進
・登録有形文化財等の施設の充実

ご寄附いただく方法

「個人のみなさま」

神戸大学へのご寄附に対しましては、寄附金額から2千円を除いた額について所得控除を受けることができます。また、平成23年1月1日以降のご寄附より、本学に寄附した翌年1月1日に神戸市にお住まいの方は、神戸市個人市民税の税額控除を受けられます。

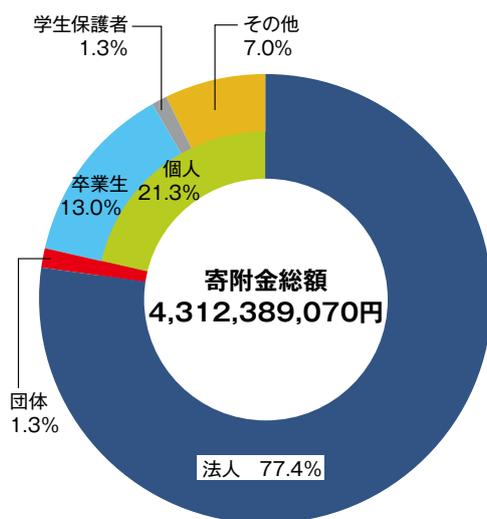
ご寄附の申込方法は、本学指定の払込取扱票でのご寄附のほか、インターネットからご寄附いただくことが可能です。

本学指定の払込取扱票がお手元ない方は、お名前・住所・電話番号を左記の基金推進室までお知らせください。折り返し払込取

●図で見る神戸大学基金募金状況（2014（H26）.11月末現在）

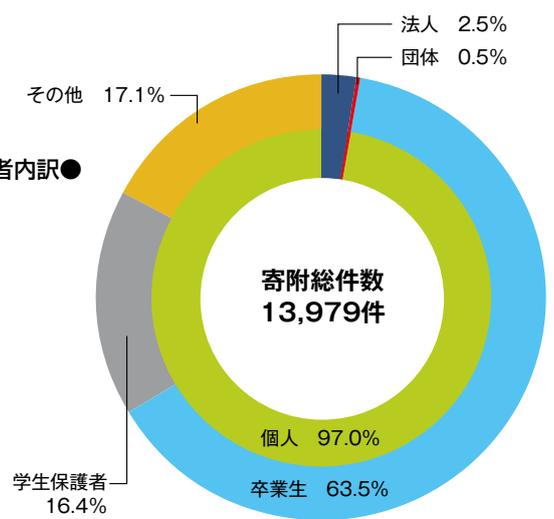
寄附金総額：4,312,389,070円
寄附総件数：13,979件

【内訳】
法人：3,337,892,000円 353件
団体：54,230,473円 76件
個人：920,266,597円 13,550件



■法人：3,337,892,000円
■団体：54,230,473円
■個人：920,266,597円
(個人内訳)
■卒業生：563,166,551円
■学生保護者：54,287,000円
■その他(学内教職員/名誉教授/卒業生保護者等)：302,813,046円

●寄付者内訳●



■法人：353件
■団体：76件
■個人：13,550件
(個人内訳)
■卒業生：8,876件
■学生保護者：2,287件
■その他(学内教職員/名誉教授/卒業生保護者等)：2,387件

投票一式をお送りします。

インターネットからのご寄附は、神戸大学ホームページからクレジットカード決済、インターネットバンキング、銀行振込のいずれかをお選びいただくことが可能です。詳しくは、下記のホームページでご確認ください。

ださい。なお、クレジットカード決済でご利用いただけるカードは、「JCB」「VISA」「MasterCard」「AMEX」「Diners Club」です。



http://
www.kobe-u.ac.jp/info/kikin/ktfu-personal.html

【トピックス TOPICS】

神戸大学古本募金「BKB」プロジェクト始動

平成27年1月から、神戸大学古本募金「BKB(Books for KOBE Univ. Bokin)プロジェクト」を開始しました。

このプロジェクトは、神戸大学と株式会社バリューブックスとの業務提携によるプロジェクトです。在学生、卒業生、教職員、一般の方から書籍(CD・DVD等を含む)をお送りいただき、その買い取り金額が全額「神戸大学基金」への寄附金となり、神戸大学の学生支援に役立てられる仕組みです。

詳細は下記ホームページをご覧ください。
<http://www.furuhon-bokin.jp/kobe-u/>

※買い取り価格は需要と供給で決まるため、寄附していただいた本の状態が良くても値段がつかないこともあります。ご了承下さい。
 ※本プロジェクトでは、値段がつかない本を、提携会社の株式会社バリューブックスを通じて、国内の福祉施設、図書館、海外の教育研究機関に寄贈します。



<http://www.kobe-u.ac.jp/info/kikin/kiyu-enterprise.html>

【法人のみさまへ】
 所定の寄附申込書に必要事項をご記入の上、下記基金推進室まで郵送ください。折り返し、振込依頼書をお送りします。寄附申込書は、基金推進室に法人名・住所・電話番号をお知らせいただければ送付します。あるいは左記のサイトから書式をダウンロードすることもできます。

写真で見る神戸大学基金



●PSA (Pre-Study Abroad) 研修オリエンテーション



●東日本大震災ボランティア活動



<http://www.kobe-u.ac.jp/info/kikin/top.html>

【神戸大学基金ホームページ】
 神戸大学基金について、詳しくは左記のホームページをご覧ください。

お知らせ

皆さまの、貴重なご意見、ご感想など、一言メッセージを神戸大学基金推進室にお寄せください。

【神戸大学基金推進室】
 E-Mail: kikin@office.kobe-u.ac.jp



寄附者からの一言メッセージ

寄附をしていただいた皆さまから、次のようなメッセージが基金推進室に寄せられました。

「私はこんな理由で寄附しました」

- 神戸大学の学生が世界トップクラスの学生との知的格闘に挑戦する経験が持てるように。
- 父は本年2月に死去いたしました。お世話になっておりましたので。
- 卒業後約30年を経過し、学生時代が掛け替えのないものであることを改めて実感しております。
- 奨学金制度で特にお世話になりました。今があるのは母校のおかげです。
- 次世代の「海賊とよばれた男」を輩出できる大学に再生して欲しい。
- このたび息子が神戸大学基金奨学金の給付をいただきました。ありがとうございます。
- 親子でお世話になった母校の発展を願っています。
- 世界中から優秀な学生が集まる大学になってほしい。
- 留学生のお役に立てればと思っております。
- 課外活動への支援に。
- ささやかですが、母校に感謝の意を込めて、傘寿を迎えて。
- サラーマン生活満了記念。
- 旧帝大に負けないように頑張ってください。
- 地道な基礎研究も花を開きますように。お役に立てたらと思っています。

発行のこぼれ

神戸大学は、明治35年(1902年)の創立以来、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を理念とし、社会に貢献する人間性豊かな指導的人材の育成と、普遍的価値を有する「知」の創造拠点としての世界的教育・研究機関たることを目指してきました。

● 今、20世紀都市文明からの転換が激しく迫られる中で、大学にはその創造力を発揮して新しい21世紀文明構築のさきがけとなることと求められています。「神戸大学ビジョン2015」は、その第一歩として、「世界トップクラスの教育・研究」「卓越した社会貢献・大学経営」の実現を目指しています。

● 「神戸大学基金」は、ビジョンの実現を加速するためのターボ装置です。ターボの力をより強力なものとするためには、神戸大学が社会により深く根を張り、そこからの支持と支援を拡大することが不可欠となっています。

● 本誌「神戸大学とわたし」Across the Boundaries」は、神戸大学と社会の接点を取材し、「ビジョン」を先取りする取り組みを可視化することで、社会貢献の促進とビジョンの早期実現に資することを目的として発行されました。読者の皆様の忌憚のないご意見をお待ちしています。

2010年1月1日

※表紙題字下の「メタモルフオーゼ」は、生物学でいう「変態・変身」の意。本誌は神戸大学が21世紀に飛躍する様を追いかけています。

神戸大学とわたし

Across the Boundaries
 通巻第12号 No.12
 2015年1月26日発行

発行人 国立大学法人神戸大学
 編集人 企画部社会連携課(基金推進室)
 〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1
 TEL: 078-803-5414
 FAX: 078-803-5024



E-Mail: kikin@office.kobe-u.ac.jp

思い出の詰まった母校へ! **第10回** 2015年10月31日(土)
記念式典: 出光佐三記念六甲台講堂
神戸大学ホームカミングデー

【予定しているイベント】

記念式典、第12回留学生ホームカミングデー、学部企画、ホームカミングデー市、学生主催のイベントなど

卒業生のみなさま・名誉教授の先生方に、現役学生・教職員との交流を深めていただく機会として、
今年も「ホームカミングデー」を開催します。

ゼミ・クラブ・サークル同窓会の同時開催もお待ちしています。みなさまお誘い合わせの上、お越しください。



振り返れば六甲の山並 ~あの頃の友に会いたい

